

小奥戸(4)遺跡Ⅱ

－大間原子力発電所建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

2002年1月

青森県教育委員会

小奥戸(4)遺跡Ⅱ

－大間原子力発電所建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

2002年1月

青森県教育委員会

序

大間原子力発電所建設に伴う遺跡の発掘調査は、過去に青森県教育庁文化課によって、遺跡の確認調査と試掘調査、及び小奥戸（1）遺跡の発掘調査がなされており、当センターにおいても白砂遺跡、小奥戸（2）遺跡等の、大間町に所在するいくつかの遺跡の調査を実施して参りました。

大間町は、本州最北端に位置し、間近に北海道を望む地理的特性のためか、過去の当センターの発掘調査でも、北海道の影響の濃い遺物を出土することが知られております。

小奥戸（4）遺跡は、津軽海峡を望む海岸段丘上に立地する遺跡です。平成8年度に試掘調査、平成9年度に発掘調査を実施しておりますが、今回報告するのは、平成12年度に発掘調査を行った分です。調査の結果では、縄文時代の石器、奈良時代の遺物が出土しております。

この報告書が、大間町のみならず、周辺地域の歴史研究や文化財保護に活用されることを期待し、最後になりましたが、この調査の実施及び報告書の作成にあたり、御指導・御協力を賜りました関係各位に対し、厚く感謝申し上げます。

平成14年1月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長 中島邦夫

例 言 • 凡 例

- 1 本報告書は、大間原子力発電所建設事業に伴い平成12年度に実施した大間町小奥戸（4）遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の所在地は、大間町奥戸字小奥戸、外である。
県遺跡番号は、52026として登録されている。
- 3 本報告書の編集執筆は、野村信生が担当し、遺構と遺物の実測図と図版等の作成は、上記職員と調査補助員および室内作業員が行った。
- 4 石質鑑定については八戸市文化財審議委員 松山力に依頼した。（敬称略）
- 5 本書に掲載した地形図（遺跡の位置）は、国土地理院発行の5万分の1地形図を複製したもので、縮尺は変更している。
- 6 掘図の縮尺は、図ごとにスケールを付した。
- 7 遺物写真の縮尺は、図中に表示した。
- 8 堆積土の色調は、『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄 1993）を用いた。
- 9 本稿で使用した遺構の略号は、SKを土坑とした。
- 10 引用文献については、第4章の後に収めた。
- 11 発掘調査における出土遺物、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目 次

序

例言・凡例

目次

挿図目次

表目次

写真図版目次

第1章 調査概要

| | |
|----------------|---|
| 第1節 調査要項..... | 1 |
| 第2節 調査の方法..... | 3 |
| 第3節 調査の経過..... | 3 |

第2章 遺跡の環境

| | |
|---------------|---|
| 立地と周辺の遺跡..... | 5 |
|---------------|---|

第3章 遺構と遺物

| | |
|---------------|---|
| 第1節 概要..... | 5 |
| 第2節 検出遺構..... | 5 |
| 第3節 出土遺物..... | 7 |
| 土器..... | 7 |
| 土製品..... | 7 |
| 石器..... | 7 |

| | |
|--------------|----|
| 第4章 まとめ..... | 11 |
|--------------|----|

引用・参考文献

遺物観察表

写真図版

報告書抄録

挿図目次

| | | | |
|------------------------|---|------------------------|----|
| 図 1 遺跡位置 ······ | 2 | 図 5 遺構外出土土器 ······ | 9 |
| 図 2 基本層序 ······ | 3 | 図 6 遺構外出土土器・土製品 ······ | 10 |
| 図 3 遺構配置 ······ | 4 | 図 7 遺構外出土石器 ······ | 10 |
| 図 4 土坑 (SK 1~8) ······ | 8 | | |

表 目 次

| | | | |
|---------------------|----|--------------------|----|
| 表 1 遺構外出土土器 ······ | 12 | 表 3 遺構外出土石器 ······ | 12 |
| 表 2 遺構外出土土製品 ······ | 12 | | |

写真図版目次

| | | | |
|-------------|----|-------------|----|
| 写真 1 ······ | 13 | 写真 4 ······ | 16 |
| 写真 2 ······ | 14 | 写真 5 ······ | 17 |
| 写真 3 ······ | 15 | 写真 6 ······ | 18 |



第1章 調査概要

第1節 調査要項

1 調査目的

大間原子力発電所建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する小奥戸（4）遺跡の埋蔵文化財発掘調査を行い、その記録を保存して、地域社会の文化財の活用に資する。

2 遺跡名および所在地 小奥戸（4）遺跡（青森県遺跡番号52026）

青森県大間町奥戸字小奥戸、外

3 発掘調査期間 平成12年4月18日～同年5月31日

4 調査面積 3,000平方メートル

5 調査委託者 電源開発株式会社

6 調査受託者 青森県教育委員会

7 調査担当機関 青森県埋蔵文化財調査センター

8 調査体制

調査指導員 市川 金丸 青森県考古学会会長（考古学）

調査員 松山 力 八戸市文化財審議委員（地質学）

葛西 励 青森短期大学助教授（考古学）

調査担当者 青森県埋蔵文化財調査センター

所長 中島 邦夫

次長 成田 誠治

総務課長 西口 良一

調査第三課長 木村鐵次郎

文化財保護主事 野村 信生

調査補助員 工藤 美希 小島由記子 鶴中加那子 細川志穂子



図1 遺跡位置

第2節 調査の方法

グリッドは平面直角座標系に基づいた5mメッシュの方眼とした。X=167317・Y=6782を基点とし、北から南に向けて5mごとに算用数字で表示し、西から東に向けて5mごとにアルファベットで表示した。算用数字はX=167367を起点ラインとして、北から南に1・2・3……と設定した。アルファベットはY=6782を起点ラインとして、西から東にA A・A B・A C……と設定した。

表土除去作業にはバックホーを使用した。表土下は作業員により掘り下げを行い、随時遺構検出を行った。遺構は発見順に遺構名を設定し、原則として1/20で実測図を作成した。遺構以外の出土遺物の取り上げは、層位を確定しグリッド単位で行った。調査にあたっては、土層の堆積状況を観察するため適宜セクションベルトを設定し、土層注記は『標準土色帖』を用いた。土層の名称は、基本層序については上層から下位にローマ数字を、遺構内堆積土については上位から下位に算用数字を設定した。

写真撮影は適宜行うこととし、モノクローム、カラーリバーサル、カラーネガの各種類のフィルムを使用した。

第3節 調査の経過

調査は平成12年4月18日に開始した。NO. D187 (X=167272、Y=6772) を基準として、調査区内にNO. D187-1 (X=167272、Y=6807) を設置した。この平面直角座標系を基点として調査区内に5mのグリッドを設定した。4月下旬にはトレントを設定し、遺構・遺物の出土状況を確認した。土坑・柱穴が確認され、また土師器片・紡錘車・石器が確認されたことから、バックホーにより調査区全域の表土を除去した。5月24日から重機による調査区の埋め戻し作業を行った。調査は5月下旬にはほぼ終了し、5月31日に撤収した。

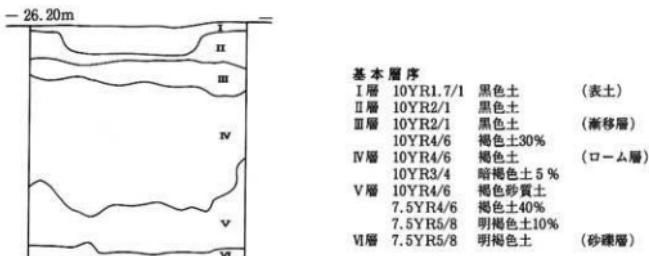


図2 基本層序 (1:40)

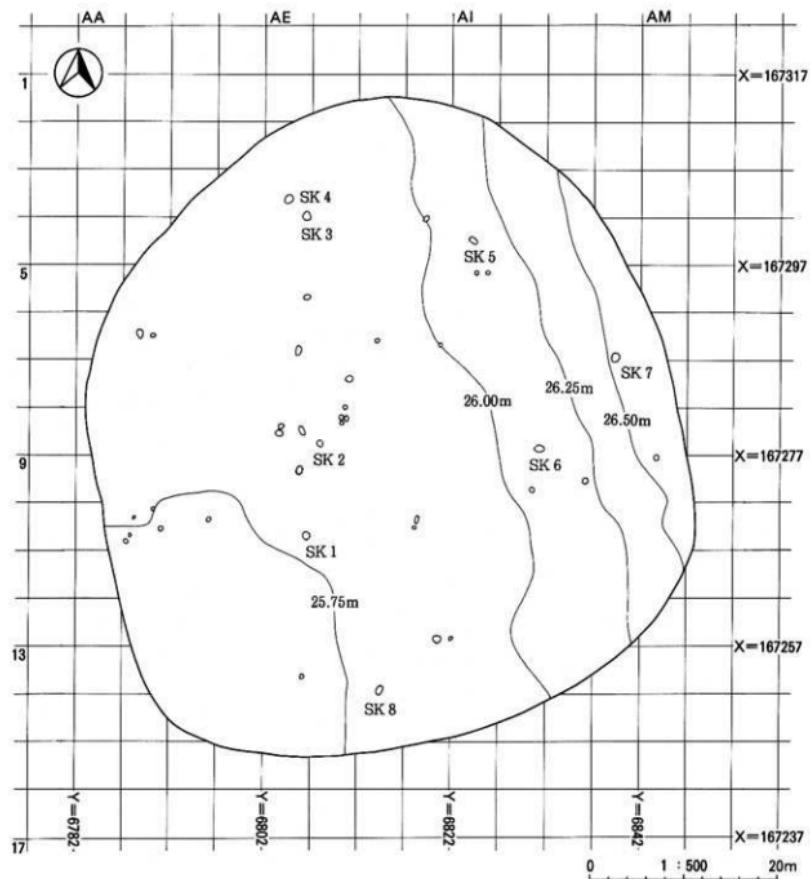


図3 遺構配置

第2章 遺跡の環境

立地と周辺の遺跡

小奥戸（4）遺跡は、本州最北端である大間崎南方約4.3km、津軽海峡に面した標高約26mの海岸段丘上に位置する。海岸段丘は西吹付山麓から続く平地に形成され、遺跡の北側には小奥戸川、南側に奥戸川と豊かな水源に恵まれる。また、海岸まで約250mと近く、豊かな海産物にも恵まれた場所である。

大間崎周辺は海岸段丘が発達しており、大矢・市瀬（1957）が以下のとおり区分している。海拔160～150mを高位平坦面上位、下位海拔110～90mを高位平坦面下位、海拔90～70mを第3段丘、海拔50～40mを第3段丘・第4段丘中間面、海拔40～20mを第4段丘、海拔20～10mを第5段丘。この区分によると小奥戸（4）遺跡は第4段丘に相当する。

遺跡内の層序は安定しており、図2の通りである。黒色土の堆積は薄くⅠ・Ⅱ層に分かれ、Ⅲ層を中心と土師器等の遺物が出土した。ローム漸移層をⅣ層とし、遺構検出を行った。

大間崎内の遺跡は、1998年刊行の『青森県遺跡地図』によると26箇所登録されている。遺跡は海岸段丘上の縁辺部に形成され、小奥戸川下流域と奥戸川下流域周辺の海岸段丘上に集中する。遺跡の北側約500mに小奥戸（1）遺跡、南側約350mに小奥戸（2）遺跡、北側約700mに小奥戸（3）遺跡が所在する。また北海道系である擦文土器が出土した遺跡は、奥戸遺跡・大間遺跡・割石遺跡・小奥戸（1）遺跡の4遺跡である。

第3章 遺構と遺物

第1節 概 要

小奥戸（4）遺跡からは、土坑・柱穴が出土した。共伴する遺物がないため、明確な時期を確定するのは困難である。検出はⅢ層上面で行った。検出面からの掘り込みが浅く、明確に機能を把握できるものがないため、一部の土坑のみ記載した。なお遺構配置図には全ての遺構を記載した。遺物はⅢ層を中心に、土師器・土製品・石器が少量出土した。土師器は細片のみで、器形を復元できるものは出土しなかった。土製品は紡錘車が2点、石器は有茎石鏃が1点、使用痕がある剥片が4点出土した。

第2節 検出遺構

第1号土坑（図4）

【位置】標高25.84mのA E10グリッドに位置する。

【規模・形状】長軸80×短軸68×深さ16cmである。平面は梢円形、底面は平坦で壁はやや外傾する。

【堆積土】黒褐色土が主体となる自然堆積である。

第2号土坑（図4）

【位置】標高25.90mのA F 8グリッドに位置する。

【規模・形状】長軸68×短軸60×深さ26cmである。平面は円形、底面は若干起伏し、壁はやや外傾する。

【堆積土】自然堆積である。

第3号土坑（図4）

【位置】標高25.84mのA E 3・4グリッドに位置する。

【規模・形状】長軸88×短軸80×深さ20cmである。平面は不整形、底面はほぼ平坦で壁はやや外傾する。

【堆積土】自然堆積である。

第4号土坑（図4）

【位置】標高25.84mのA E 3グリッドに位置する。

【規模・形状】長軸100×短軸76×深さ20cmである。平面は円形、底面は有段となるがほぼ平坦で壁はやや外傾する。

【堆積土】自然堆積である。

第5号土坑（図4）

【位置】標高26.06mのA I 4グリッドに位置する。

【規模・形状】長軸92×短軸48×深さ16cmである。平面は隅丸方形、底面は起伏し、壁はやや外傾する。

【堆積土】自然堆積である。

第6号土坑（図4）

【位置】標高26.10mのA J 8グリッドに位置する。

【規模・形状】長軸94×短軸68×深さ22cmである。平面は梢円形、底面は起伏し、壁はやや外傾する。

【堆積土】自然堆積である。

第7号土坑（図4）

【位置】標高25.54mのA L 6グリッドである。

【規模・形状】長軸96×短軸84×深さ10cmである。平面形は円形、底面はほぼ平坦で壁はやや外傾する。

【堆積土】自然堆積である。

第8号土坑（図4）

【位置】標高25.84mのA J 13グリッドに位置する。

【規模・形状】長軸98×短軸56×深さ24cmである。平面形は椭円形、底面が起伏し、壁はやや外傾する。

【堆積土】自然堆積である。

第3節 出土遺物

土器（図5・6-1~30）

土器器のみの出土で、壺・甕が確認できた。ここでは細片が少量出土したのみなので、細かな分類はさけ、器種別に報告する。

壺（図5-4~9・12）

全て非ロクロ成形である。4・6は口縁部下に段をもつ。4は口縁部に回転ナデ、体部と内面にミガキを施す。5~8は内外面にミガキを施す。9は内外面にナデを施す。12は外面にナデ、内面にミガキを施す。6は内面に黒色処理が施され、4・5・8・9・12は薄く、7はさらに薄く黒色処理が施される。

甕（図5・6-1~3・10・11・13~30）

全て非ロクロ成形である。26~30は同一個体である。口唇部の断面は三角形・平坦・沈線を施すものがある。調整は口縁部に回転ナデ・ナデを施す。体部と底部はミガキ・ナデ・ケズリ・ハケが施される。内面にはミガキ・ナデが施される。

土製品（図6-31・32）

2点の紡錘車が出土した。外面にナデ調整を施す。

石器（図7）

5点出土した。1は有茎石鏃、2~5は使用痕がある剥片である。

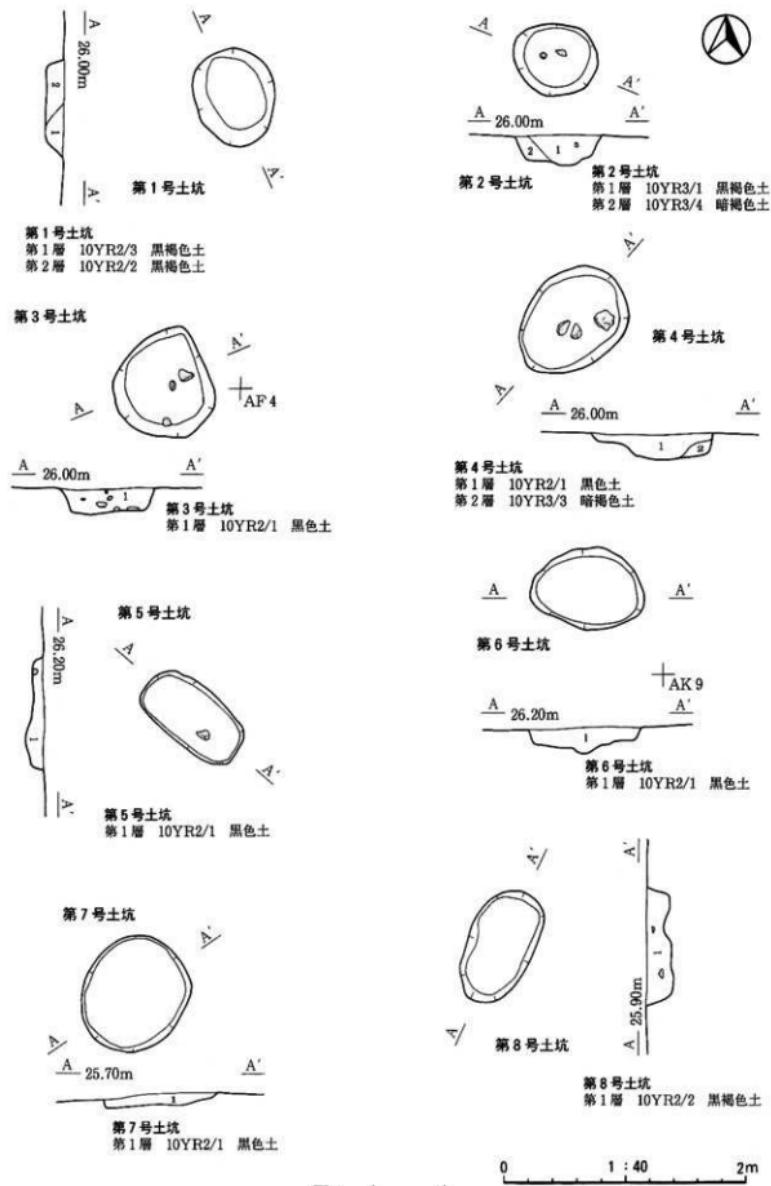


图4 土 坑

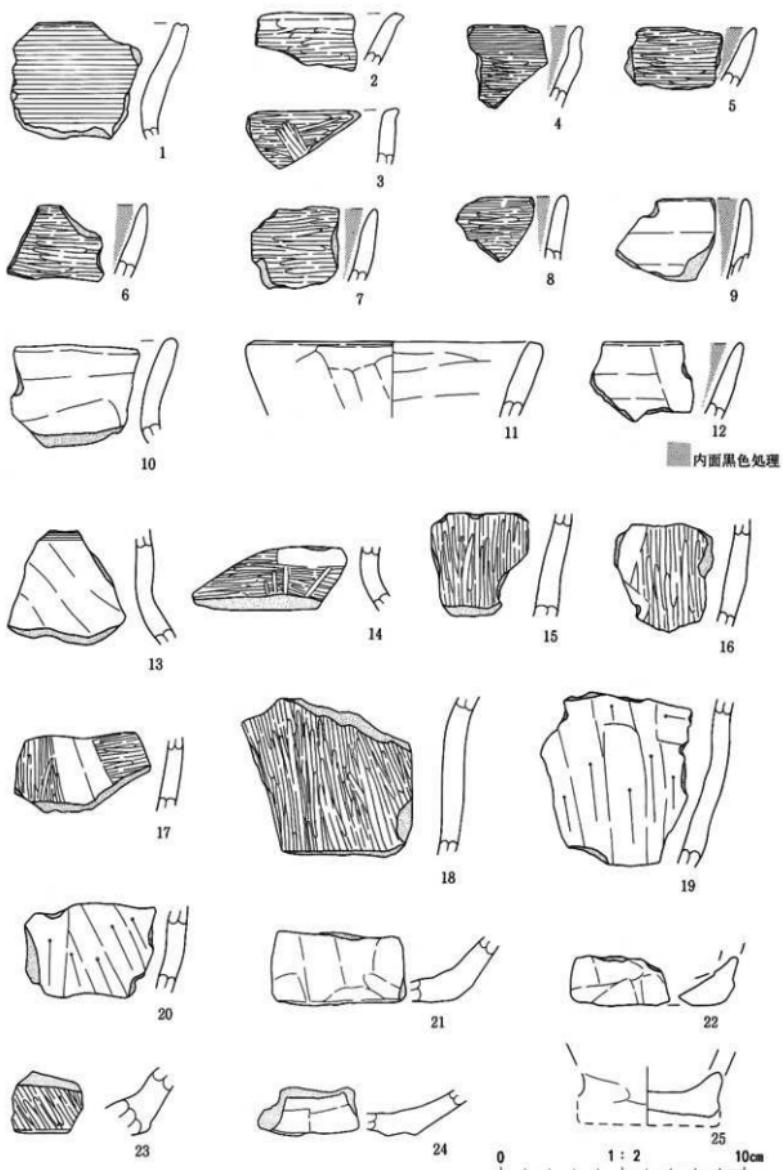


図5 遺構外出土土器

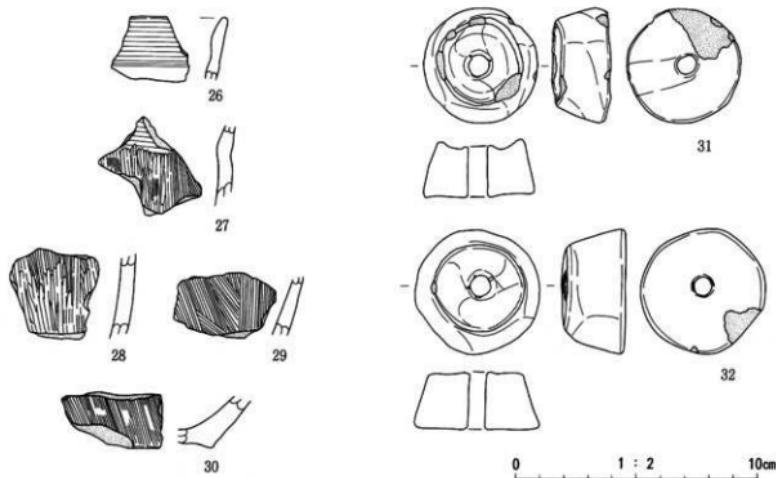


図6 遺構外出土土器

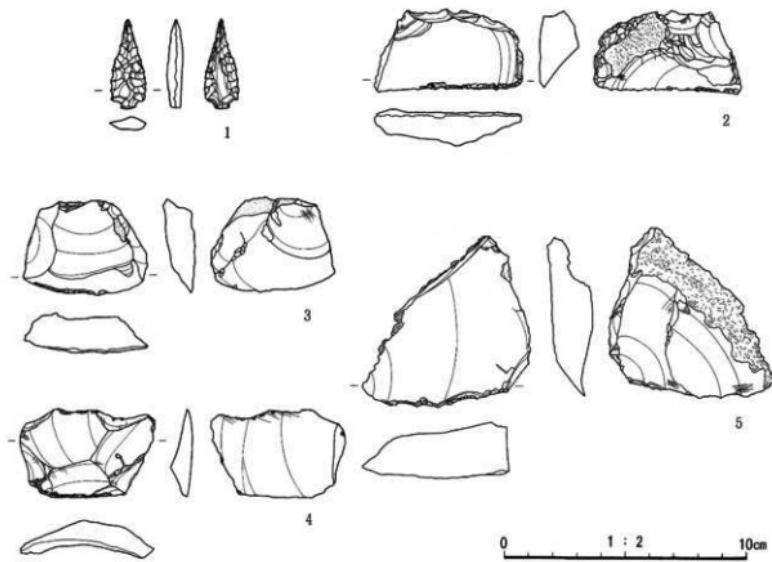


図7 遺構外出土石器

第4章 まとめ

平成12年度調査の小奥戸（4）遺跡からは、土坑・柱穴、少量の土器・土製品・石器が出土した。遺物はⅡ層を中心に出土したが、黒色土であったため遺構検出は困難であり、Ⅲ層上面で検出した。検出面からの遺構の掘り込みは浅く、共伴する遺物は出土しなかった。また配置に規則性はなく、機能を把握することができるものはなかった。Ⅱ層から遺物が出土することから、本来はⅡ層中から掘り込まれたと考えられる。遺構の時期に関しては、共伴する遺物がないため明確な時期は不明である。

土器は土師器のみが出土し、壺・甕の2器種が確認できた。壺は非ロクロ成形で、外面に回転ナデ・ミガキ・ナデ調整、内面にミガキ・ナデ調整が施される。器壁は厚く、口縁部下が若干屈曲し段を有するものもある。内面は黒色処理が施されるが、色の濃淡が3つに分類される。甕は非ロクロ成形で、外面に回転ナデ・ミガキ・ナデ・ケズリ・ハケ調整、内面にミガキ・ナデ調整が施される。細片資料であるため部分的な特徴であるが、壺の非ロクロ成形、甕の口唇部にみられる沈線等から、7世紀後葉～8世紀中業（飛鳥・奈良時代）と考えられる。土製紡錘車についてもⅡ層から出土しているため、同時期と考えるのが妥当と思われる。石器については、平成9年度の青森県埋蔵文化財調査センターの調査で、縄文時代晩期末～弥生時代初頭と考えられる土器片が出土していることから、同時期の可能性が考えられる。

今回の調査では、集落の中心的場所ではないが、人間の活動の痕跡が確認された。

引用・参考文献

- 青森県教育委員会 1992 「小奥戸（1）遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第154集
- 青森県教育委員会 1995 「白砂遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第189集
- 青森県教育委員会 1998 「小奥戸（2）遺跡 小奥戸（4）遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第240集
- 大間町教育委員会 1993 「大間町二ツ石2遺跡」大間町文化財調査報告書第6集

表1 遺構外出土土器

| 図版番号 | グリッド | 層位 | 器種 | 外面色調 | 外面調整 | 内面調整 | 備考 |
|------|-------|----|----|--------------|----------|--------|--------------|
| 5-1 | AE-6 | II | 甕 | 7.5YR6/6橙 | 回転ナデ | ナデ | |
| -2 | AE-5 | II | 甕 | 10YR6/4にぶい黄橙 | ミガキ ナデ | ミガキ | |
| -3 | AE-5 | II | 甕 | 7.5YR5/4にぶい褐 | ミガキ | ミガキ | |
| -4 | AE-5 | II | 坏 | 10YR4/2灰黄褐 | 回転ナデ ミガキ | ミガキ | 内面黒色処理(薄) |
| -5 | AE-5 | II | 坏 | 7.5YR6/6橙 | ミガキ | ミガキ | 内面黒色処理(薄) |
| -6 | AE-5 | II | 坏 | 10YR6/4にぶい黄橙 | ミガキ | ミガキ | 内面黒色処理(濃) |
| -7 | AE-5 | II | 坏 | 7.5YR6/4にぶい橙 | ミガキ | ミガキ | 内面黒色処理(さらに薄) |
| -8 | AE-5 | II | 坏 | 10YR4/2灰黄褐 | ミガキ | ミガキ | 内面黒色処理(薄) |
| -9 | AE-8 | II | 坏 | 5YR6/6橙 | ナデ | ナデ | 内面黒色処理(薄) |
| -10 | AH-9 | II | 甕 | 7.5YR6/4にぶい橙 | ナデ | ナデ | |
| -11 | AE-5 | I | 甕 | 7.5YR6/6橙 | ナデ | ナデ | 口径11.3(cm) |
| -12 | AE-6 | II | 坏 | 10YR6/4にぶい黄橙 | ナデ | ミガキ | 内面黒色処理(薄) |
| -13 | AE-5 | II | 甕 | 5YR6/6橙 | ナデ 回転ナデ | ナデ | |
| -14 | AE-5 | I | 甕 | 5YR5/4にぶい赤褐 | ミガキ ナデ | ナデ | |
| -15 | AE-5 | II | 甕 | 10YR3/2黑褐 | ミガキ | ナデ | |
| -16 | AE-5 | II | 甕 | 7.5YR4/6褐 | ミガキ ナデ | ナデ | |
| -17 | AH-9 | II | 甕 | 10YR4/3にぶい黄褐 | ミガキ ナデ | ナデ | 外面煤状炭化物付着 |
| -18 | AE-6 | II | 甕 | 7.5YR5/6明褐 | ミガキ | ナデ | |
| -19 | AE-5 | II | 甕 | 10YR6/4にぶい黄橙 | ケズリ | ナデ | |
| -20 | AE-5 | II | 甕 | 10YR5/4にぶい黄褐 | ケズリ | ナデ | |
| -21 | AH-9 | II | 甕 | 7.5YR5/4にぶい褐 | ナデ | ナデ | |
| -22 | AE-5 | II | 甕 | 7.5YR6/4にぶい橙 | ナデ | 不明 | |
| -23 | AE-5 | II | 甕 | 10YR3/1黑褐 | ミガキ | ナデ | |
| -24 | AE-5 | II | 甕 | 10YR5/2灰黄褐 | ナデ | ミガキ | 底面ケズリ |
| -25 | AH-9 | II | 甕 | 7.5YR6/4にぶい橙 | ナデ | ナデ | |
| 6-26 | AF-10 | II | 甕 | 5YR4/6赤褐 | 回転ナデ | 回転ナデ | 26~30同一個体 |
| -27 | AF-10 | II | 甕 | 5YR4/4にぶい赤褐 | 回転ナデ ハケ | ミガキ | ナデ |
| -28 | AF-10 | II | 甕 | 5YR4/4にぶい赤褐 | ハケ ミガキ | ナデ ミガキ | |
| -29 | AF-10 | II | 甕 | 5YR4/4にぶい赤褐 | ハケ | ナデ | 外面煤状炭化物付着 |
| -30 | AF-10 | II | 甕 | 5YR4/6赤褐 | ハケ | ミガキ | |

表2 遺構外出土土製品

| 図版番号 | グリッド | 層位 | 色 調 | 調 整 |
|------|------|----|------------|-----|
| 6-31 | AE-5 | II | 7.5YR5/6明褐 | ナデ |
| -32 | AE-6 | II | 7.5YR4/6褐 | ナデ |

表3 遺構外出土石器

| 図版番号 | グリッド | 層位 | 器種 | 長さ: mm | 幅: mm | 厚さ: mm | 重さ: g | 石材 |
|------|-------|-----|----------|--------|-------|--------|-------|------|
| 7-1 | AE-12 | II | 有茎石錐 | 37 | 14 | 7 | 37 | 珪質頁岩 |
| -2 | AF-3 | IV | 使用痕がある剥片 | 35 | 60 | 15 | 27.6 | 珪質頁岩 |
| -3 | AE-5 | III | 使用痕がある剥片 | 39 | 51 | 16 | 24.3 | 珪質頁岩 |
| -4 | AB-10 | II | 使用痕がある剥片 | 55 | 36 | 9 | 17.1 | 珪質頁岩 |
| -5 | 不明 | II | 使用痕がある剥片 | 70 | 68 | 23 | 77.7 | 珪質頁岩 |



道路遠景



道路遠景



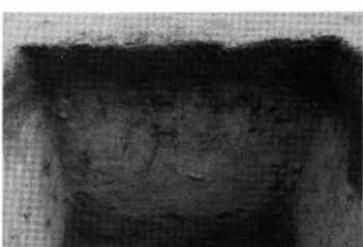
道路近景



周辺風景



周辺風景



基本層序



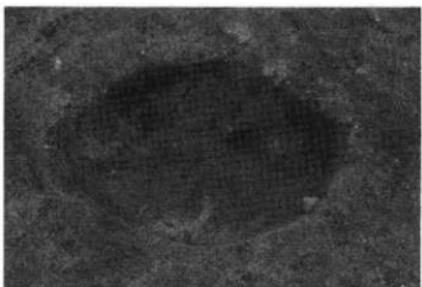
道路全景



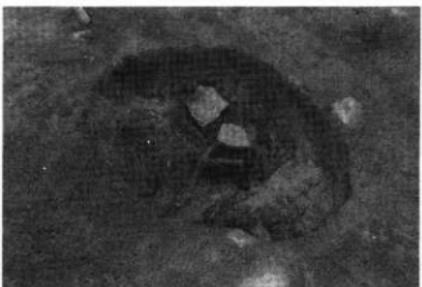
道路全景



第1号土坑断面



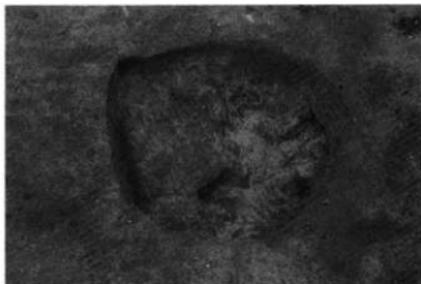
第1号土坑完掘



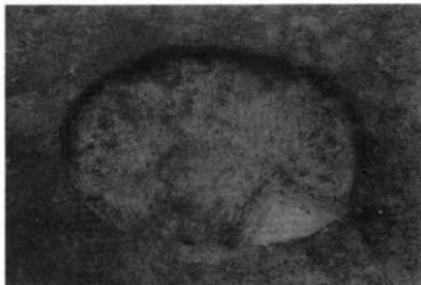
第4号土坑完掘



第3号土坑断面



第3号土坑完掘



第7号土坑完掘



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11

S=1/1

写 真 4



12



18



19



29



30



31



32



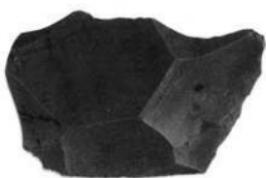
1



2



3



4



5

写 真 6

S=1/1

報告書抄録

| | | | | | | | |
|--------------|--|------------|-------|------------|-------------|---------------------------|-------------------------------|
| ふりがな | こおこっぺかっこよんいせき | | | | | | |
| 書名 | 小奥戸（4）遺跡 | | | | | | |
| 副書名 | 大間原子力発電所建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 | | | | | | |
| 卷次 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 青森県埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第314集 | | | | | | |
| 編著者名 | 野村 信生 | | | | | | |
| 編集機関 | 青森県埋蔵文化財調査センター | | | | | | |
| 所在地 | 〒038-0042 青森市大字新城字天田内152-15 TEL 017(788)5701 FAX 017(788)5702 | | | | | | |
| 発行年月日 | 2002年1月25日 | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | コード | | 北緯 | 東經 | 調査期間 | 調査面積 m ² |
| 所収遺跡名 | 所 在 地 | 市町村 | 遺跡番号 | | | | 調査原因 |
| 小奥戸（4） 遺跡 | 青森県下北郡大間町大字奥戸字 小奥戸地内 | 02423 | 52026 | 41° 30' | 140° 54' | 20000418 ～ 20000531 | 3,000 大間原子 力発電所 建設事業 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | |
| 小奥戸（4） 遺跡 | 散布地 | 縄文 飛鳥奈良 | | 石器 土師器 | | | |

青森県埋蔵文化財調査報告書 第314集

小奥戸(4) 遺跡

—大間原子力発電所建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

発行年月日 2002年1月25日

発 行 青森県教育委員会

編 集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042 青森市大字新城字天田内152-15

TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702

印 刷 所 高金印刷株式会社

〒038-0015 青森市千刈2丁目1-30

TEL 017-781-0519・2244 FAX 017-781-2509



活彩あおもり
—輝くあおもり新時代—